

第34期第7回研究会「テレビ報道番組の政党イメージ・党首好感度に与える影響」（ジャーナリズム研究・教育部会企画）終わる

日 時：2015年1月17日（土）14：00～17：00

場 所：上智大学12号館4階12-402教室

第1部 研究報告

渡邊久哲（上智大学）

佐藤友紀（日本民間放送連盟）

第2部 パネルディスカッション

桶田 敦（TBSテレビ）

峰久和哲（朝日新聞）

渡邊久哲

モデレーター：音 好宏（上智大学）

参加者：59名

記録執筆者：音 好宏

今回の研究会は、2部構成で行われた。第1部では、テレビの報道番組は、有権者に対してどのような影響を与えるのか。とりわけ選挙報道期間中における報道は、各政党や党首に対して有権者が抱くイメージに少なからぬ影響を与えるのではないか。そういった問題意識から、渡邊会員が代表を務める研究プロジェクトが行った2013年7月参院選の選挙期間におけるテレビ報道番組の内容分析と有権者意識調査の分析の成果を、この研究プロジェクトに携わった渡邊会員、佐藤会員が報告。今回の調査では、政治家のテレビ露出とその好感度とに強い相関が見られたことなどを解説した。

第2部では、その調査報告をベースに、テレビ報道と政治との関係について、メディア現場の実情、このところの日本の政治状況とメディアとの関係などを含め、昨今の政治報道と世論との関わりについて、広く議論をした。

朝日新聞で世論調査に長らく関わってきた峰久氏からは、政治報道と政治意識との関係について、既存の調査データを紹介しながら解説。桶田会員からは、選挙特番や社会情報番組を担当した経験から、社会情報系番組での「政治ネタ」が扱われる機会が多くなっている中で、番組による「政治ネタ」の扱いの違いなどについても、現場の事情を踏まえながら、解説、分析をした。

フロアには、メディア研究者のみならず、政治報道、選挙報道に携わっているメディア関係者も多く参加。いまの政治状況に対するメディアの現場の雰囲気や実情などを踏まえた活発な議論が続いた。

なお、本研究会、上智大学メディア・ジャーナリズム研究所との共催の研究会として開催した。